

聖愛

八月号

原町聖愛保育園

二〇一〇年八月二日発行

暑い日が続いていますが、子どもたちは水遊びを楽しんで元気に過ごしています。これからも、水遊びや泥遊びなど、夏ならではの解放的な遊びの経験を思う存分出来るような計画をたて、保育をすすめていきます。



「放蕩息子のお話」(ルカによる福音書十五：十一～二十四)

聖書に放蕩息子のお話があります。大変有名なお話なので聞いたことがある人が多いと思います。このたとえ話には、いろいろな教えが含まれています。

あるところに、父親と二人の息子がいました。ある日、弟が父親に町に住むから自分が受け継ぐ財産を分けてくれと言って、それを貰って町に出ます。ところが、貰った財産を全部遊びに使いはたしてしまいます。お金がなくなると、それまでの仲間は相手にしなくなり、ついには豚の餌でも食べたいと思うほど食詰めてしまいました。

もうだめだという所まで来たとき、父の家を思い出します。たくさん使用人がいて、食べるものも十分にある。そうだ、家に帰って使用人として使ってもらおう。そうすれば、餓死しなくてすむ。そこで父の家に帰ります。


父親は、いつもどうしているかと案じていましたので、遠くから帰ってくる子どもを見つけ駆け寄ります。「よく生きて帰って来てくれた！」と心から歓迎します。子どもは、「御免なさい。使用人として置いてください。・・。」ところが、父親は使用人に「死んだと思っていた息子が帰ってきた。早く晴れ着を着せ、宴会の用意をしなさい。」と言って心から喜び迎え入れました。

この話には、人間と神様の関係を教えています。この関係からわたしたち親子のあり方を教えていると思います。わたしたちは、「だから言っただろう」と、まず叱ってから受け入れようとしますが、これでは逆効果です。本当の愛とは、まず受け入れ愛していることを示すべきです。そうすると、子どもは後は言われなくても深く反省し、二度繰り返さないようになります。

(社会福祉法人ちいろは会 理事長・牧師 佐藤 健)

8月の保育目標 主題 「ふれあう」

暗唱聖句 「イエスはその一人一人に手を置いていやされた」 ルカによる福音書4章40節

	保育目標	活動	保育者の配慮
0歳児 てんし	・保育者と一緒に水や砂に触れ、気持ちよさを感じる。	・プールで水遊び(シャワー、スポンジ、遊び) ・砂遊び ・追いかけっこ(ハイハイ、つかまり立ち)	・一人ひとりの体調に合わせ、木陰や外気浴で気持ちよさを感じられるように、ゆったりと過ごせるようにする。 ・水、砂など素材に触れ、心地良さを味わうと共に、関心を持って身の回りのものに触れてみようとする気持ちを大切にす。
1歳児 つぼみ	・好きな遊びを十分に楽しむ。 	・水遊び ・色水遊び ・ボディペインティング ・小麦粉粘土 ・リズム遊び ・ボール転がし ・築山(くぐる、登る、降りる)	・全身での感触遊びを工夫し、個々が興味を持って遊べるようにする。また、戸外で過ごす際は木陰で過ごしたり、時間配分に留意し、水分補給を行うなど体調管理をしっかりとす。 ・凸凹道や坂道を歩いたり、ボールを転がすとといった手足を使った遊びを提供し、一緒に楽しむ。
2歳児 はな	・保育者や友だちと関わりながら、遊びや活動を十分に楽しむ。	・プール遊び(魚を使って、フープくぐり) ・ボディペインティング ・水彩遊び	・周りへの興味、関心が高まり、行動範囲が広がることが考えられるので、安全面には十分に配慮し、活動を楽しめるようにする。 ・解放的に遊ぶあそびで、自分でやろうとする気持ちを大切に、見守ったり励ましたりする。
3歳児 ファミリークラス	・関心のあるものを見たり、触れたり試す中で、じっくりと遊ぶ。	《室内》 ・木の枝のペンダント※1 ・葉っぱの形あそび ・水彩画(体験したことを描く) ・鼓笛隊※5	・製作時に想像や見立てあそびが楽しめるような環境を整え、じっくり取り組めるよう時間を確保する。 ※1 ・面白さや嬉しさに共感し、感じた気持ちを言葉や体で表現できるように、音楽、リズムを取り入れる。 ※2 ・並ぶ、集まる、場所を知る等、自分で理解して動けるように個別に配慮する。
	・友だちと様々なことに、取り組むことを喜び一緒に進める。	《屋外》 ・プール3歳(水の中を走る) 4歳(顔をつける、もぐる) ※3 5歳(もぐる、パタ足)	・泥や水あそびを通し、解放感を十分に楽しみ、夏ならではの体験を大切に進める。体調の変化には十分に配慮する。 ※3 ・競い合うものや集団で行う遊びを多く取り入れ、一緒にできる面白さを感じられるよう工夫して行う。また、その中で話を最後まで聞いて行動に移すことや力を合わせて行う大切さを知らせていく。 ※4
	・友だちと力を合わせて、物事をすすめる楽しさや嬉しさを感じる。	・かけっこ ・棒引き※4 ・リズム・表現あそび※2 ・馬跳び、二人三脚※6	・互いの良い所を認め合い、改善する所やどうやったらいいか方法を考える機会を作り、共に物事をすすめる難しさ、また楽しさを感じられるように促す。 ※5 ・友だちと息を合わせて、走ったり、ペースを合わせたりしながら、体を動かす面白さを体験できるようにする。 ※6

◎ 8月の行事予定 ◎

日	園の行事	職員の予定
2(月)	ミニ音楽会 (はな・ファミリー) 巡回相談会 (発達支援室)	
3(火)	合同礼拝 (ほし・つき組)	
4(水)	子育てサークル	職員会議
5(木)	久米本先生指導 しゃりん梅訪問 (ほし)	
6(金)	わんぱく遠足 (つき、小3・4)	
9(月)		キ保連夏季セミナー
10(火)		(~10日)
11(水)		企画会議
12(木)	ポップコーン (クラブ活動) 久米本先生指導	施設長部会
13(金) ~16(月)	お盆希望保育 (お弁当)	
19(木)	小人さんの音楽会	園内研修 マネージャー会議
20(金)	久米本先生指導	
21(土)		保育士部会学習会 環境教育研修 (~22日)
22(日)	ほれん：親と子の集い	
23(月)	お母さん勉強会	
25(水)	子育てサークル	給食会議
26(木)	避難訓練	

※今月のお弁当の日は13日(金)~16日(月)

※23日~9月3日 保育士資格取得のため実習生2名が実習

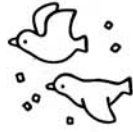
<「平和」を願って>

8月は原爆投下や終戦記念の日があり、戦争や平和について考えさせられる月です。今の暮らしは、「平和だ」と思われる方も多いと思います。しかし、世界の各地では今も、紛争や争いが続いていて、心に傷を負ったり、いつ被害を受けるかわからない状態にある人たちがたくさんいます。

平和とは、「①やすらかにやわらぐこと。おだやかで変わりのないこと。」②戦争がなく世が安穏であること。」とあります。(広辞苑) 保育園では毎日の礼拝で、自分たちのことだけではなく、様々な苦しみの中にある人々のためにもお祈りをしています。

この機会にご家庭でも「平和」について話し合ってみましょう。他人を思いやるということは、どういうことなのか考える機会になってもらえると思います。次の絵本もぜひ読んでください。

- ・広島のパカ
- ・かわいそうなぞう
- ・ピカドン
- ・灯籠流し
- ・地雷ではなく花を下さい
- ・その他



<わんぱく遠足> つき組・小学3、4年生

日時：8月6日(金) 午前8時30分~午後3時

場所：不動尊キャンプ場 (丸森町)

つき組と小学生と一緒に山へ行って、様々な体験をします。

<運動会> 2010年9月25日(土) 原町第二小学校体育館

運動会テーマ：「森」

サブテーマ：~ 四季・きらめく・静か ~

これまで、保育の中で近隣の山へ行って五感を使って体験したり、絵本を見てイメージをしたり、しながら子どもたちと「森」に関連した遊びを展開しています。

運動会の種目の中にも、遊びからイメージし森に関連する競技にしていきます。当日の子どもたちの競技を楽しみにして下さい。



<今月の主題「ふれあう」>

抱っこやおんぶなどスキンシップが触れ合いと思われがちですが、子どもの心に寄り添う、心と心の触れ合いがあります。

子どもたちが様々なことに興味、関心を持つ中で大人に気持ちを理解してもらうを通し、生きる喜び、生きる力を習得していきます。生活の中で子どもたちは初めての出会い、触れ合いがあります。大人にとって当たり前のことであっても、子どもが気づいたり、感じたりしたことを大人が共感することで、子どもは、ますます世界が広がっていきます。

心のふれあいを大切にしましょう。

<夏を元気に乗り切りましょう>

暑い日が連日続き疲れが取れにくく、食欲が落ちたり、寝苦しくて寝不足になったりします。この「夏負け」を防ぐためにも毎日の生活リズムを整えるのが大切です。次のことに気をつけましょう。

- ・食事は三食きちんと摂り、冷たい飲み物ばかり飲まない。
- ・十分な睡眠と、早寝・早起きの習慣を守る。
- ・エアコンの使用は、外気温と室内温度の差が極端にならないように気をつけ、体を冷えから守る。
- ・毎日入浴をして血行をよくし、一日の疲れをその日のうちにとる。



<自然と親しむ>

自然から離れた生活の中にあっても、人々は自然の中に入れば、「おどろく、不思議に思う、感動する、安らぎ、幸福感」という生き生きとした感性がよみがえるはず。身近に自然があっても、多くの人は、自然と親しみたいと思っても、戸惑っています。

「自然の中で感じる」、「自然の中で遊ぶ」、「自然の恵みをいただく」などを通して、感性を豊かにする方法のヒントをお伝えします。

- ・どんな日にも出かける。…色々な季節やどんな気候でも出かけてみる。その時にしか発見できないことがあります。
- ・実を楽しむ。…山で集めた実を眺めたり、遊んだりする。など
- ・自由に植物に名前をつける。…植物をよく観察して、感じて名前をつける。

参照：キリスト教保育 中池 敏之

園庭の真ん中にある大きな木は、「榎(えのき)」です。(ニレ科の落葉高木。樹皮は灰色、初夏は淡黄色の花が咲き、球形の小核果を結ぶ。木材は薪や炭、器具などに用いられる。果実は甘く若葉は飯とともに炊いて食用することもできる。)

16年前、園舎新築記念として、園庭の真ん中に植えられました。今の時期は葉が生い茂り、木陰をつくって子どもたちを集め、小鳥たちは葉っぱにいる小さな虫を求めて集まってきました。

大きな幹に取り付けられたハンモックに揺られ、また、ミストシャワーを浴びながら、スーッと吹き抜ける風を感じ、気持ちよさを全身で感じています。

青虫やセミの抜け殻に驚き、小鳥の鳴き声を聞き分け、アリの行列の行き先をたどる…、子ども達の感性はこのような体験の中で積み重ねていることを日々実感しています。

聖愛保育園では、このような子どもたちの感じる心を援助する保育を心がけています。



<お知らせ・お願い>

- ・今月の午睡用布団類の持ち帰りは、12日(木)・27日(金)。
- ・保育料口座引き落とし日は、7月分8月2日、8月分8月31日です。残高不足がないよう事前に確認して下さい。
- ・送迎の際は、暑い時期ですが、車のエンジンは必ず切って駐車して下さい。(盗難事故防止や環境保護にもつながります。)
- また、お子さんだけを先に車から降ろすと事故にもつながります。歩行者も運転者もお互いに気をつけましょう。

*夏まつりのご協力ありがとうございました。